

# 山梨県スポーツ指導者協議会

## 会報

第十八号

平成20年  
3月31日  
発行

### プレイヤーの期待に 応えるために



山梨県スポーツ指導者協議会

会長 田草川 光 男

スポーツを生活の中に  
取り入れ、健康で充実し  
前向きな生活を送りたい  
と考える人は益々多くな  
っております。

心地よさは、他のものに  
は代え難いからだと言わ  
れています。

このようにプレイヤー  
のさまざまな欲求に対し

それはスポーツを通し  
てそのプレイヤーの内面  
に芽生えるものに、自立  
心、責任感、創造力、決  
断力、情熱、コミュニケ  
ーション能力、フェアプ  
レイの精神等があり、充  
実感、満足感、達成感、  
爽快感を、スポーツする  
ことにより味わった時の

指導者は適切なサポート  
が望まれています。とり  
わけ公認スポーツ指導者  
には、日体協「二十一世  
紀のスポーツ指導者」で、  
①コミュニケーションス  
キルを身につけ、一方的  
な指導でなくプレイヤー  
と良く話し合い、自立心  
の養成のサポート、②マ

ナーやエチ  
ケットなど  
道徳的規範  
養成のサポ  
ート、③目  
標の設定と  
達成のため  
の手法につ  
いてのサポ  
ート、④スポ  
ーツとの出会いや継続、  
仲間作りのサポート。⑤  
快適なスポーツライフの  
構築、年齢、技能や要求  
にあった一貫した指導な  
ど最適な環境の提供、が

資質として求められ、こ  
のような多様なニーズに  
対応するために日々の研  
鑽が求められています。  
会員の皆様の活動は  
人々が充実した人生を送  
り、より快適な社会を支  
えるものとして大きな力  
となっており、その重要  
性は益々高まって行くこ  
とと思われまます。多忙な  
活動が続く皆様の健康と  
さらなるご活躍を祈念し  
挨拶とします。

### 平成十九年度

### 関東ブロック会議のまとめ

副会長 松 野 傳

今年度の第一回全国指  
導者連絡会議・関東ブロ  
ック会議は、山梨県笛吹  
市石和町で開催された。  
日程は、六月二十九日  
(金)の午後全体会議を  
ワークショップ形式で行  
い、翌日三十日の午前に

事例発表を中心に会議を  
行った。参加者は全国指  
導者協議会及び日本体育  
協会役員をはじめ、関東  
各都県の代表の計六九名  
であった。  
今年度のテーマも昨年  
までと同様で、「スポー  
ツ指導者の養成と活動の促  
進」であり、サブテーマ  
は「総合型地域スポーツ  
クラブと公認スポーツ指  
導者」であった。

今年度の特徴は、会議  
がワークショップ形式で  
進められたことと、事例  
発表を取り入れたこと  
である。ワークショップは  
関東ブロック会議が開催  
されるようになって初め  
ての形式であったが、大  
勢から多くの貴重な意見  
が出された。そして「非  
常に友好的で有意義な会  
議であった」という声が  
聞かれた。また事例発表  
では、総合型地域スポー  
ツクラブについて神奈川県  
と山梨県から発表され  
たが、その発表により話  
し合う内容が具体化され、  
活発な意見や質疑が見ら  
れた。



皆が楽しめる支部活動！

西八代支部 赤池 義明

私たちの支部は、平成七年九月に発足し、現在二十五名の支部員という小さな組織ではありますが、スポーツの生活化という大志を胸に抱きながら活動をしてきました。

当初は暗中模索の中で、支部員が日ごろの活動の中で指導などを行っている競技を学ぼうと、空手や水泳、ゲートボールなどの教室を開催してきましたが、おりしも中高年の

のトレッキ  
ングブトム  
の到来によ  
り、山岳へ  
の要望が強  
まってきた  
こと、支部  
員の中に長  
い経験と卓  
越した経歴  
を持つ、山  
岳の指導員  
が複数いた  
ことなどが  
複合的に作  
用し、今日  
まで支部が  
管轄する、

思親山頂で楽しくコーラス！

町内の山梨百名山に指定された素晴らしく気高い山の頂を、九ヶ所も踏破することができました。

どの頂からも日本一の富士山を展望できるなど、特に参加者からも大きな感動と次回開催への要望が出されるなど、主催する立場としても、これ以上のもはないほどの喜びを抱かせて頂いた記憶が、次から次へとよみがえってきます。

また、健康志向の高まりの中で、ウォーキング教室の開催が希望されるなど、期待にこたえて平成十九年二月に「第一回市川大門駅～甲府駅間ウォーキング教室」を開催し、多くの参加者とともに歩行行程十五キロの中で爽やかな汗をかくことができました。また、本年度も既に開催要項を策定し、参加申し込みを受け付ける手配を済ませたところであり、(平成十九年

十二月) 普段は自家用車で何気なく行き過ぎてしまいう場所も、ゆつたりと自分の目で見つめることができ、新たな発見にもつながってきたものと自負しております。

現在、南巨摩支部との合併が進められていますが、これまでの事業の行方は果たして・・・なごい一抹の不安を感じざるを得ませんが、統合協議の中で、事業存続の意向を前提に進められていますので、統合後に対し、夢と期待を抱きつつ、これまで

の合併が進められていますが、これまでの事業の行方は果たして・・・なごい一抹の不安を感じざるを得ませんが、統合協議の中で、事業存続の意向を前提に進められていますので、統合後に対し、夢と期待を抱きつつ、これまで

い理解と絶大な協力に感謝しながら、西八代支部における事業の紹介とさせていただきます。



毛無山登山参加者全員で



# 地域支部活動のあり方

中巨摩支部 天野 俊之

山梨県スポーツ指導者協議会の中にある「中巨摩支部」の運営にあたり、支部の現状と地域支部のあり方について考えてみたいと思います。

平成十九年度支部研修会を平成二十年二月に大勢の参加者の中で開催いたしました。

この中で、参加者よりのアンケートで多くの意見を頂きましたのでこの事について考えてみたいと思います。

## ◎研修会テーマ

### スポーツ指導者の役割

#### ① 今回の研修会について

メンタルトレーニングにはとても興味があり、スポーツでその大切さを感じています。トップクラスの先生の講義なのでもっと長い時間を掛けて欲しかったとの意見が多



#### ② 次回の研修会について

総合型スポーツクラブについて、スポーツ少年団の指導のあり方、スポーツ活動中の怪我やその対処法、またストレスについて等の現場的な意見が多くありました。

#### ③ 研修会開催時期

七月、十一月が多く、平日が都合良いようです。

#### ④ 支部活動について

支部活動についての説明をレクリエーションや会食等柔らかい雰囲気の中でして欲しい。

#### ⑤ 支部活動協力について

大半は無理のようですが、内容を説明して頂ければ協力します。

#### ⑥ その他の意見

支部活動の広報活動をして下さい。

これは一部の意見

見を抜粋したのですが、全体を考えてみますと、研修会についてはみんな必要と考えているようです。支部の活動状況を理解していない会員が多いとも感じました。これからは何かの広報

活動を考え理解して頂けるようにして行かなければと思います。地域の指導者との連携

を図る為、各種の情報提供や、研修会等の開催を通してそれぞれの指導者が違った目的、条件の中で活動出来るようにして行ければと考えます。

#### 山梨県スポーツ指導者協議会の中でも

各支部を通して指導者がそれぞれの条件の中で指導できるような検討も重ねているわけですが、なかなか結論が出せません。

何年かすると、県内で始まると思われる

小・中学、高校等での外部指導員導入、各地域に設立される総合スポーツクラブ講師、各市町

村のスポーツ教室講師、これらの情報を多く指導者に伝えられるよう考えています。

中巨摩支部では話し合い、あるいは運営する人が少な過ぎます。地域指導者にも支部活動運営に積極的に参加していただき、みんなで問題を解決出来ればと願っています。



# 公認スポーツ指導者表彰を受賞して

## 公認スポーツ指導者表彰 を受賞して



佐野 美恵子  
(なぎなた・指導員)

この度平成十九年度公認スポーツ指導者表彰を受賞させて頂き、恐縮の念で一杯である。

一般教養は他の種目と合同で、山梨学院大学が会場であった。

昭和六十一年、下部町が、国体なぎなた競技会場となり、全町をあげて参加することになり、婦人会員も競技役員としてその任を担うことになった。自分達もなぎなたを知らねばと、四、五年前から練習を始め、国体終了後も練習を続けた。

「年をとっている者は受からない」という噂がとんだ。私達は受講してみればついて行けるか行けないか解る。と言って頑張つて勉強し、全員が合格した。

その後、スポーツ少年団も誕生し指導にあたり。C級スポーツ指導員養成講習会が開かれることになり、なぎなたは希望者が多数だったので、実技は山梨で受講出来た。

あれから二十年夢のよう過ぎた。「あの時へこたれないでよかった」と今でも思っている。表彰式場で、山梨で参加された若尾先生はじめ諸先生に記念写真を撮って頂いた。

この度、思いがけずして表彰の栄に与りましたのは、協議会の諸先輩方や連盟の方々の多大な御支援によるものと心より感謝申し上げます。



寺田 義雄  
(水泳・指導員)

## 「公認スポーツ指導者表彰」 を拝受して

授賞式当日も、会場で副会長はじめ事務局の方々から温かいお声を掛けて頂き、改めて皆様に支えられておりますことを感じました。

「ボール投げやでんぐり返しができないからといって命を落とすことがあるだろうか。しかし、泳げないと命を失うことがある」と考え「水を恐れず、水に慣れ親しんで泳げることで尊い命を守ることにする」と信じて、水泳連盟に関わらせて頂き、四十数年。夢中で選手育成や競技会運営に携

わってきました。山梨県で初めての全国大会「かいじ国体」で水球競技を運営いたしましたことも、今では懐かしい思い出となっておりません。全国から集まった選手たちが存分に力を発揮して素晴らしい試合を展開して欲しいと、殊の外、神経を遣ったことを覚えております。

その後、日本水泳連盟から水泳指導者養成講師の任命を受け、多くの水泳指導者誕生にも関わらせて頂いておりますが、この受賞を機に、さらに命の大切さや水泳の良さ、楽しさなどを一人でも多くの方々に伝えていくよう研鑽していきたく、決意を新たにしております。

## 全国研修会に 参加して

西八代支部長  
赤池 義明

平成十九年十二月八日に都内のグラウンドプリンスホテル赤坂において、平成十九年度公認スポーツ指導者全国研修会が「スポーツから考える人づくり」をテーマに開催され、多くの指導者の皆様方とともに参加いたしました。

今回は、わが支部の理事佐野美恵子さんが指導者としての長年の功績が認められる、栄えある表彰を受賞されることが参加のきっかけとなりました。

特別講演は、泣き虫先生こと京都市立伏見高等学校ラグビー部総監督山口良治氏から「熱き思いが壁を破る」と題し、無名だった伏見高校を初優勝に育て上げ、テレビドラマスクールウォーズのモデルやNHKプロジェクXに取り上げられるまでの苦労話と、子どもたちから学んだこと、さら

にその子どもたちのお陰で花園で四回も胴上げをしてもらった感激などを織り交ぜ「子どもたちを救ってやれるのはスポーツしかない」「仲間を思いやり、対戦相手をおもいやり、レフエリに感謝する心」などを主張され、非常に興味深い内容でありました。

引き続き行われたシンポジウムは、コーデイネー



公認スポーツ指導者表彰

を受賞して

小林 賢二

(水泳・指導員)

山梨県スポーツ指導者協議会が新制度で発足し十八年、各支部において公認指導者の競技団体を越えた活動も定着しつつある。その目指すところは、総合型地域スポーツクラブでの指導であり、その為に指導者相互の連携が必要である。

我々は、スポーツを支える側の者として、協議会への理解と、積極的な参加を為すべきである。これからも支える側の一員として、他の競技指導者との課題を共有し、安全の確保を最優先に、健康増進と競技力向上を目指して自己の研鑽を積み、より質の高い指導者を目指して参る所存であります。

競技者は多種目のスポーツに興味を持ち、遊びであつても身体を動かすことにより何らかの成果を期待している。単なる種目指導者の自己充実型活動では、その欲望を満足させていないと言えよう。

最後にになりましたが、受賞に際し日ごろからご指導・ご協力頂いております皆様深く感謝し御礼申し上げます。

総合型地域スポーツクラブの設立については、日本のスポーツ文化を継承しつつ、多種目スポーツの環境を受益者負担の構想の中でいかに推進す



スポーツ指導者表彰

を受賞して

浜田 良機

(山梨大学 整形外科科学教室 教授)

この度は、平成十九年度の日本体育協会のスポーツ指導者表彰を受賞させて頂きました。

数年前から、これに代わるものとして、医学部教授として山梨理学療法士の現場での選手の外傷や障害の予防に対する活動に対する支援を開始しました。今後はスポーツドクターを中心としたコメディカル、スポーツ指導者の方々を包括したスポーツ医学活動のネットワーク作りが重要と考えていますので、このネットワーク確立に向け、微力ながら尽力したいと思っております。

ご推薦頂いた山梨県体育協会事務局長菊島博文氏、さらにはスポーツ医・科学委員会委員長今井立史先生をはじめ、スポーツ医・科学委員会の委員としての私の活動に対する数多くの諸先輩の方々のご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

スポーツドクターの役割は、スポーツ現場と直結した活動によって競技力の向上に貢献することであり、しかし大学医学部での研究活動や付属病院での日常診療の多忙さから、私自身がスポーツの現場に出ることは困難であります。そこで



この度は、平成十九年度の日本体育協会のスポーツ指導者表彰を受賞させて頂きました。

数年前から、これに代わるものとして、医学部教授として山梨理学療法士の現場での選手の外傷や障害の予防に対する活動に対する支援を開始しました。今後はスポーツドクターを中心としたコメディカル、スポーツ指導者の方々を包括したスポーツ医学活動のネットワーク作りが重要と考えていますので、このネットワーク確立に向け、微力ながら尽力したいと思っております。

ターの清水隆一氏により進められ、仙台大学教授の勝田隆氏から「スポーツの勝敗は誰の目にも単純で明らかであるが、この誰にも手出できない不平等と残酷さに正面から向き合わなければならぬ。スポーツが人をつくる原点はここにある」との主張。さらに、東海大学教授で、日本では唯一のメンタル面強化の専門教育家成田一氏からは、「モチベーションを高めることは、人間行動を起こす基本でもあり、このことが社会生活におけると考える」との言葉。さらに、ソウル五輪シンクロナイズドスイミングのデュエイト、小谷美可子さんと銅メダルを受賞。引退後、米国の大学院でスポーツ心理学を学び、Jリーグや女子ゴルフなどにメインターレニングを指導するなど、幅広く活躍されている。国際水泳連盟アジアリート委員の田中ユングエイ京氏からは「ウイニングゲーム」が「ウイニングゲーム」の選生活の終わりが、人生の終わりのように思い込んでいる人もいる。セルフアイデンティティー（自己同一性）を少なくとも二つは作っておきたい。など、我々指導者にとつて、何を教えるか、何を学びとらせられるのか、非常に示唆に富んだ内容の研修会でありました。



山梨県スポーツ指導者

研修会に参加して

角 田 功

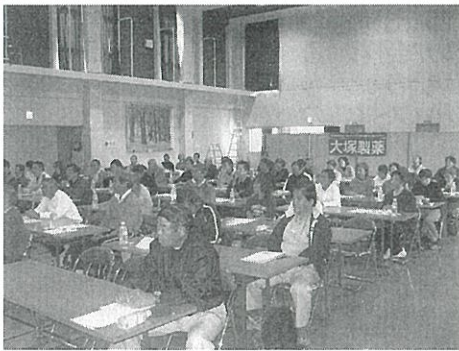
過日、山梨県スポーツ指導者研修会が開催され、「救急法について」の実技が行われた。その中の AED についての説明により、私自身が大きく勘違いをしていた点に気づいた。それは、AED を使用しての社会復帰が報道等で流されているがその裏には「心肺蘇生法」が実施されていたことにより社会復帰できたものであったことである。報道等から AED は全ての心肺停止状態の人に対して有効であるのかのように勘違いをしていた部分が私自身あり大変恥ずかしくなった。AED が使用出来る状態はごく一部の「心室細動」と言われる状態である。そこで大切となってくるのが「心肺蘇生法」である。

最後に、最近の講習会実技で「救急法」と言うこと「AED 講習」となる傾向に見られるが、我々の携わるスポーツと同じく、基本は大切なものであり疎かには出来ないものである。救急法の基本は「心肺蘇生法」であり、もう一度、初心に戻って心肺蘇生法について学ぶ必要があると強く実感した研修会であった。

三支部合同研修会を開催して

東山梨支部事務局 高野優子

甲府・東八代・東山梨の三支部は、四年前より支部を越えた会員同志が資質の向上や連帯感を深めるなかで個々の立場や能力を活かした活動が出来る環境を整えて行ければと年一回、合同で「都道府県スポーツ指導者研修会」を実施。さらに、本研修会は、春の県研修合同様、資格更新の為の義務研修会として認められるよう日程を設定、義務研修会への受講機会を増やす目的も持っている。十九年度は、十二月二日(日)、御坂町農村環境センターにて開催、三支部以外の県会員参加も多く百名程の活気のある研修会となった。講義は山梨学院短期大学教授岡本裕子先生より「スポーツ栄養について」と題し「スポーツの向上に欠かせない栄養の摂取方法につ



あなたの会費が  
組織を支えています

本協議会は、県内におけるスポーツ指導者の資質向上と相互連携を図り、県民スポーツの普及・発展を目的に、指導者の組織的指導体制の確立、各種研修会・講習会の開催、広報誌の発刊などの活動を行っています。

日本体育協会公認スポーツ指導員の皆様には、本協議会の会員になっていただいております。冒頭にも述べたとおり本協議会は、指導者組織体制の確立、各種研修会の開催などの活動を行っております。

このような活動の中、会員の皆様へは、スポーツ指導者の情報を掲載した会報の送付や、更新義務研修会になる「スポーツ指導者研修会」の案内の送付など情報の提供をいたしております。

つきましては、是非、公認スポーツ指導者の皆様には、本協議会の趣旨、活動内容をご理解いただき、各研修会への参加並びに、「会費の納入」につきましてご協力いただきますようお願いいたします。

# 指導者の資格活用対策

山梨県スポーツ指導者協議会

広報普及部 小川 徹

## 資格を取得したメリット

「資格を持つていてもそれを活かすことができない」という声やしきりである。これが、資格を取得したが何のメリットもないという声に代わり、資格に背をむける者が現れることを恐れる。

日体協 菅野 裕育成課長が、平成八年度の第二十回全国会議のあいさつで述べられたことを要約する。

『総ての指導者は指導することに責任が伴うものである。いくら意欲があり指導熱心であつても、指導の知識や指導法の技術が未熟であれば教えられる側に満足感を与えることができないし、時には健康に障害を及ぼしたり事故につながることもあるだろう。指導者としての責任を遂行するためには、教えることについて勉強しなければなら

## らない』

指導者の責任という側から見ると資格取得の過程での自己の向上という大きなメリットが考えられないだろうか。

とはいえ「資格を取ったがこれだけか」というのでは、指導への意欲に燃えて苦勞して資格を得た指導員の向上心を失わせることになりかねない。菅野課長が述べられたことは、資格が何の役にも立っていないとい

うことの直接の回答ではないが、味わうべき言葉である。日体協は、このことを課題として研究を進めている。

各競技団体においてそれぞれが育て、資格を付与した指導者のその後のフォローをすることは当然である。多くの時間と大金を使ってせっかく取得した資格を有効に活か

しきれない指導者が予想

以上に多い現状では、それぞれで事情はあるだろうが、活かすことができない事情を探ってみる必要がある。また指導する意欲はあるが、その機会が見当たらない指導者には奉仕する機会を与えるよう資格を付与した側としても努力が必要となる。

「平成九年度（財）日本水泳連盟 全国地域指導者（普及）担当者の手引きより抜粋」

## 「指導者の資格離れ」について

全国の公認地域スポーツ指導員数は、九万三千八百二十五名（二〇〇七年十月現在）である。これをピークに減少の一途を辿りそうな、深刻な事態が起きている。

水泳競技を例にとると、一般指導員登録者一万七千五百八十名のうち二千四百三十六名に及ぶ未更新者が過去三年間に発生している。（二〇〇五・六・七年度

スポーツジャーナル 冬号）

これから団塊の世代の引退が進み、新卒者の争奪戦が熾烈を極め、今後の指導者養成にも支障をきたし、優秀な人材の獲得が困難になってくることは必至である。

公認スポーツ指導者が誇りを持って活動できる環境を整備を、早急に進めなければ、指導者の資格離れに歯止めを掛けることはできないと感ずる。

## 「公認スポーツ指導者賠償補償制度」の導入中止について

（財）日本体育協会は平成十七年度第四回指導者育成専門委員会の承認を得て、正式な導入に向けて関係諸機関と調整を行

った。登録料を財源としての「公認スポーツ指導者賠償補償制度」の導入については、関係団体等との間で種々の問題が生ずることとなり、最終的に導入は見合わせる事になった。

「本制度の導入は出来ませんが、これに代わる指導者へ還元できるサービスを継続検討してまいりますので、よろしくご理解いただきますようお願いいたします。」

（第十八回団体協育成発 第五十一号 平成十八年六月二十六日付）



早川南小学校プール竣工

公認スポーツ指導者のみなさまへ

公認スポーツ指導者総合保険制度のご案内

賠償責任保険・普通傷害保険

1. 本制度の趣旨

2. 加入資格

3. 保険料

財団法人 日本体育協会

平成十九年度事業報告

期 日	会議の名称等	会 場 等
平成十九年 四月 十一日(水)	・山梨県スポーツ指導者協議会 第一回理事会	小瀬スポーツ公園 武道館会議室①
五月 十日(木)	・平成十八年度 会計監査	小瀬スポーツ公園 管理棟会議室
五月二十六日(土)	・平成十九年度山梨県スポーツ 指導者協議会総会・研修会	小瀬スポーツ公園 武道館
六月 十三日(木)	・山梨県スポーツ指導者協議会 第二回理事会	小瀬スポーツ公園 武道館会議室①
六月二十九日(金) ～三十日(土)	・平成十九年度第一回全国スポ ーツ指導者連絡会議・関東ブ ロック会議	山梨県 石和温泉郷「糸柳」
十月 十七日(木)	・山梨県スポーツ指導者協議会 第三回理事会	小瀬スポーツ公園 武道館会議室①
十二月 七日(金)	・平成十九年度第二回全国スポ ーツ指導者連絡会議	東京都「日本体育 協会地下3階講堂」
十二月 八日(土)	・平成十九年度公認スポーツ指 導者等表彰・全国研修会	東京都「グランドプ リンスホテル赤坂」
平成二十年 二月二十七日(水)	・山梨県スポーツ指導者協議会 第四回理事会	小瀬スポーツ公園 武道館会議室①
三月三十一日(月)	・会報第十八号発刊	

平成二十年度事業計画案

期 日	会議の名称等	会 場 等
平成二十年 四月 十六日(木)	・山梨県スポーツ指導者協議会 第二回理事会	小瀬スポーツ公園 武道館会議室①
五月 十四日(水)	・平成十九年度 会計監査	小瀬スポーツ公園 管理棟会議室
五月二十四日(土)	・平成二十年度山梨県スポ ーツ指導者協議会総会・研修会	小瀬スポーツ公園 武道館
六月 十八日(木)	・山梨県スポーツ指導者協議会 第二回理事会	小瀬スポーツ公園 武道館会議室①
六月二十六日(木) ～二十七日(金)	・平成二十年度第一回全国スポ ーツ指導者連絡会議・関東ブ ロック会議	東京都「グランド ヒル市ヶ谷」
十月 十五日(木)	・山梨県スポーツ指導者協議会 第三回理事会	小瀬スポーツ公園 武道館会議室①
十二月 五日(金)	・平成二十年度第二回全国スポ ーツ指導者連絡会議	東京都
十二月 六日(土)	・平成二十年度公認スポーツ指 導者等表彰・全国研修会	東京都
平成二十一年 二月 十九日(木)	・山梨県スポーツ指導者協議会 第四回理事会	小瀬スポーツ公園 武道館会議室①
三月三十一日(火)	・会報第十九号発刊	

あ  
と  
が  
き

新しい企画で、編集し  
てみました。

この協議会の、ご理解  
を願う／活動内容のアピ  
ール／スポーツ界におけ  
る位置など中核にすえ  
て。

さらに、魅力ある会報  
にするためにご意見、ご  
要望をお寄せ下さい。

編集：広報普及部

発行先

山梨県スポーツ指導者協議会  
事務局

〒400-0836 山梨県甲府市小瀬町840

(財)山梨県体育協会内

TEL 055-243-8588 / FAX 055-243-8599